

東京学芸大学 文部科学省委託  
「高等学校における日本語指導体制整備事業」  
企画開発委員会調査部会 第2回ヒアリング

# 大阪府立大阪わかば高等学校 （多部制単位制 I・II部） 報告

---

2021年8月24日

報告者：森山玲子

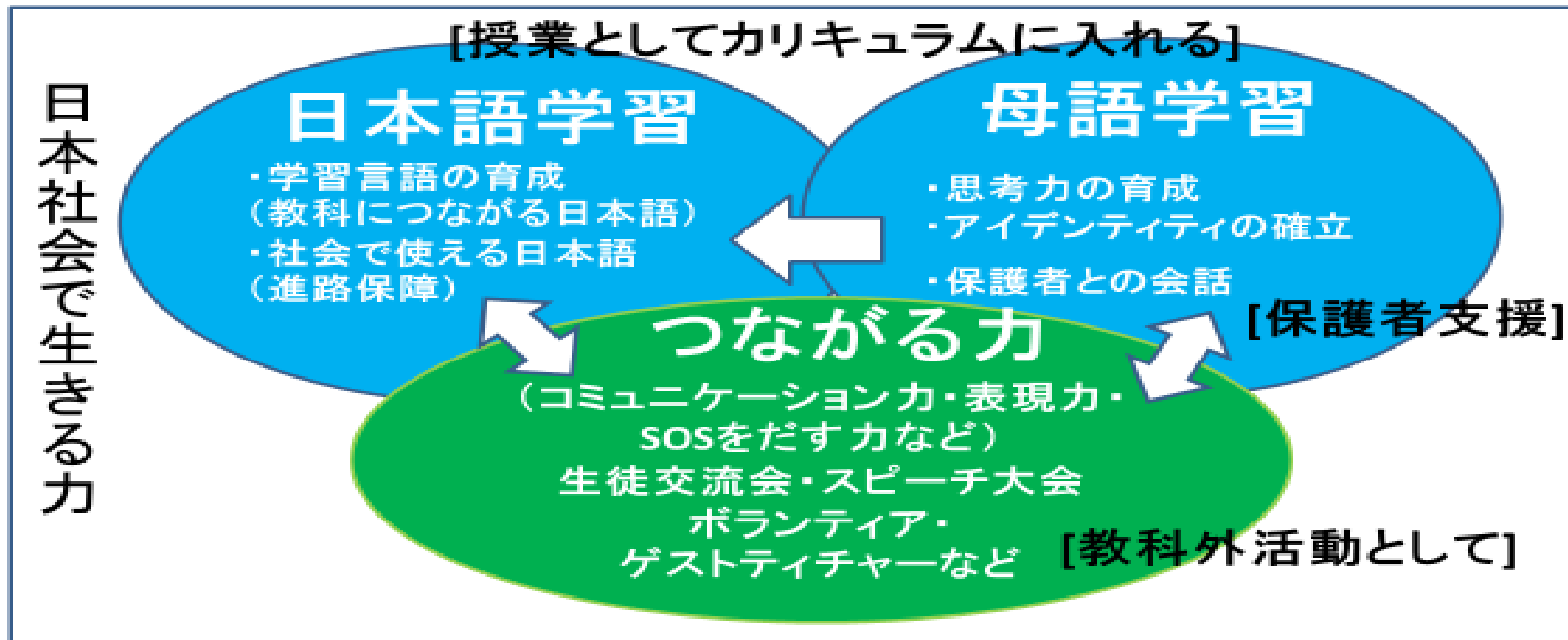
# 日本語指導が必要な高校生等の中退・進路状況

文科省・大阪府教育庁より

平成29年度

	全国	大阪府立
<b>1. 中途退学率</b>		
日本語指導が必要な高校生等	9.60%	6.20%
全高校生	1.30%	2.00%
<b>2. 進学率</b>		
日本語指導が必要な高校生等	42.20%	66.70%
全高校生	71.10%	76.10%
<b>3. 就職者における非正規就職率</b>		
日本語指導が必要な高校生等	40.00%	43.80%
全高校生	4.30%	12.00%
<b>4. 進学も就職もしていない者の率</b>		
日本語指導が必要な高校生等	18.20%	9.70%
全高校生	6.70%	6.50%

# 大阪府立高校の「粹校」の取り組み



# 大阪府立高校 日本語指導が必要な生徒

2001年度 特別枠 2校

2004年度 特別枠 4校

府立高校日本語指導が必要な生徒 約190名



2020年度 特別枠 7校(全定数92名)

府立高校日本語指導が必要な生徒 約400名

# 大阪府立 大阪わかば高等学校

定時制の課程 多部制単位制 I・II部 普通科

「勝山高校」と「桃谷高校多部制単位制 I・II部」の  
統合整備により 令和2(2020)年開校

生徒の多様性を尊重し、

一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより

常に変化する社会の中で、様々なかたちで

社会とかかわることができる人を育てる

# ①ー1 大阪府立大阪わかば高校

## 日本語指導が必要な生徒たちの状況

---

1年次生： 中国：2人、 ベトナム：1人

2年次生： フィリピン：1人

# ①ー2

## 日本語指導が必要な生徒たちの状況

---

R2年開校より 定員割れによる**二次募集、編転入学、秋季入学**を実施

「**特別枠校を不合格**となった生徒」

「他校を**留年して編転入学**した生徒」

「中学校を卒業しても高校に進学せず1年遅れで**過年度で入学**した生徒」

「小学校、中学校より**不登校**だった生徒」

「教室に入り辛く**別室登校**していた生徒」

等が在籍している。

# ①ー3

## 日本語指導が必要な生徒たちの状況

---

### ○日本語能力・学力

- ・母語での理解力、思考力はあるが、**日本語を使おうとしない**
- ・日本語での日常会話(聞く、話す)は、大きな問題はないが、日本語での理解力や**読み、書きが十分でない**
- ・**学習習慣が身につけていない**、積み重ね学習が苦手



# ①－4

## 日本語指導が必要な生徒たちの状況

---

### ○生活・学習上の困難

- ・家庭が複雑で**不安定**、**経済的に困難**な生徒が多い
- ・スクールカウンセラー(SC)やソーシャルワーカー(SSW)、児童相談所等と連携して支援している生徒もいる
  - 心理的・福祉的支援**

## ②日本語指導・教科指導

---

○ 「日本語」授業や抽出授業なし

全生徒にテストの「ルビうち」

○ 「教育サポーター」の派遣（放課後）

中国語、ベトナム語のみ

- ・母語で学校のルールや申請書類の説明、
- ・教科の授業方法や課題についての説明、
- ・検定試験等の学習、悩み相談 など

### ③進路支援 進学指導・就職支援・キャリア教育

---

- 単位が修得できておらず、進路支援まで及ばない
- 日本語能力試験や中国語検定等、  
過去問題には取り組むが、受験にまでは至らない

## ④多文化共生のための教育活動等

---

○外国語の選択授業として、

「韓国・朝鮮語」「中国語」を開講

○特に外国人生徒の存在を意識した授業やHRは、

今年度は、特別に実施していない

## ⑤校内体制

---

○大阪府教育庁の

「教育サポーター」制度

「保護者懇談通訳」派遣を申請するためには、

外国籍生徒日本語指導が必要な生徒の把握が必要

→「人権教育推進委員会」が委員長を中心に実施

# ① 2022年度 より

---

「日本語指導が必要な  
帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」

定員は未発表

# キャリア支援のための 日本語教育と多文化共生

地域から大阪、日本社会に向けた大阪わかば教育の発信

2021年8月6日(金) 14:00開始  
(13:30受付)

オンライン配信  
(Zoomウェビナー)事前申込必要

## 令和4年度より日本語指導が必要な生徒選抜が始まる大阪わかば高校

府立高校における日本語教育の実践と成果を踏まえ、これからの高校における日本語教育の取組を発信します。共存のまち、生野区で感性豊かなグローバル人材を育成する教育について発信します。地域ネットワークと連携し、多様な生徒たちを包括的に支える新しい学校像を発信します。

### I部 基調報告 14:30~15:00

- 勝山からわかばへ  
～多様な生徒を支える地域に根差した多文化共生の学校づくりを!!～  
大阪府立大阪わかば高等学校校長 幸川 由美子 さん
- 府立高校で日本語指導を受け、活躍している卒業生



### II部 パネルディスカッション 15:00~15:55

- 大阪わかば高校と生野区の将来を考える
- |          |                               |                                  |                       |                      |
|----------|-------------------------------|----------------------------------|-----------------------|----------------------|
| パネリスト    | 東京大学大学院<br>生野区<br>大阪府立大阪わかば高校 | 高谷 幸 さん<br>山口 照美 さん<br>甲田 菜津美 さん | 大阪成蹊大学<br>NPO法人クロスベイス | 向畦地 昭雄 さん<br>金 和永 さん |
| コーディネーター | NPO法人コリアNGOセンター 金光敏 さん        |                                  |                       |                      |



生野区マスコット  
キャラクター  
いっくみん

大阪わかば高校  
実行委員会  
協賛校



#### 参加申込

右記のQRコードから必要事項を入力の上、お申し込みください。  
もしくは、下記アドレスに「お名前」「ご所属」「連絡先」を明記して送信してください。  
お申込み受付完了時に当日のURLをお送りいたします。(8月5日17:00まで)

#### 参加無料!



問い合わせ 大阪わかば教育フォーラム実行委員会  
E-mail : osakawakaba.forum@gmail.com

(主催) 大阪わかば教育フォーラム実行委員会  
(後援) 生野区、大阪府教育委員会、大阪府立学校在日外国人教育研究会  
(協力) 東京大学・実践と政策のダイナミクスによる多文化共生研究会

#### パネリスト



高谷 幸 (たかやさち)  
東京大学大学院人文社会系研究科准教授  
岡山大学、大阪大学教員を経て現職。専門は社会学・移民研究。著書「移民政策とは何か」(人文書院・共著、2019年)、「追放と抵抗のポリティクス」(ナカニシヤ出版、2017年)。



向畦地 昭雄 (むかいあぜちあきお)  
大阪成蹊大学 大阪成蹊短期大学 教育研究支援統括本部長  
大阪府出身。1983年より大阪府立学校教諭として、阿武野高等学校、守口北高等学校、四條畷高等学校に勤務。この間、1996年には1年間の民間企業等派遣研修生として、ダイハツ工業株式会社、阪急電鉄株式会社で学ぶ。2001年より大阪府教育委員会事務局保健体育課、教職員企画課、高等学校課に勤務。  
2012年、大阪府立柏太高等学校長、2015年、大阪府立北野高等学校長を経て、2017年より大阪府教育庁教育振興室長、2019年より教育監。2021年より現職。



山口 照美 (やまぐちてるみ) 生野区長  
兵庫県生まれ。同志社大学文学部卒。塾や予備校の国語教師や管理職を経て起業し、企業や自治体の広報代行や企画に関わる。教育ジャーナリストとしても活動し、2013年4月より民間人校長として大阪市立数津小学校校長を3年間務めた。大阪府教育委員会首席指導主事を経て、2017年4月から生野区長に就任し、外国籍住民の多いまちで多文化共生施策に取り組む。2020年法務省「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」に関する有識者委員を務める。 Twitter ID: TerumiYamaguchi1



金和永 (きむふあよん)  
特定非営利活動法人クロスベイス事務局スタッフ/学習支援コーディネーター  
大阪大学大学院文学研究科後期博士課程単位修得退学(臨床哲学)。在日コリアン3世と4世のあいだ。6歳から生野区に在住し民族学級で学ぶ。大学生の頃(公財)とよなか国際交流協会と出会い、外国ルーツの子どもの居場所づくりの活動や若者支援事業にボランティアなどとして関わる。  
2017年よりNPO法人クロスベイススタッフ。生野という地元につながりながら、学習支援や体験活動の企画、まちづくりに関わっている。臨床哲学で学んだ対話の場づくりの実践も、いくつかの場所で細々と続けている。



甲田 菜津美 (こうだなつみ) 大阪府公立高校国語科教諭  
Minamiこども教室実行委員。東大阪JFCの活動にも関わりをもつ。大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻博士前期課程終了。  
外国にルーツを持つ児童生徒の対話学習を主とした年少者の日本語教育を研究。ミャンマーでの日本語学校講師、インドネシアのBina Nusantara大学人文学部日本語学科専門講師、北方四島交流事業における国後島日本語講師派遣を経て、2017年より現職。学校教育だけでなく、地域における日本語教育にも携わり続けている。

#### コーディネーター



金光敏 (キムクワンミン) (特活)コリアNGOセンター理事兼事務局長  
大阪生まれ、在日コリアン3世。学校法人白頭学院理事(韓国系民族学校)、NPO法人コレジオ・サンタナ理事(ブラジル学校)。ほかに行政諮問委員、大学非常勤講師。  
主な著書に「大阪ミナミの子どもたち～歓楽街で暮らす親と子を支える夜間教室の日々」(彩流社)、「多文化社会を生きる子どもとスクールソーシャルワーク」(共著、かもがわ出版)、「Q&Aでわかる外国につながる子どもの就学支援―「できること」から始める実践ガイド」(共著、明石書店)ほか。

## ② 日本語指導・教科指導

---

○高校で**対話型アセスメントの導入**

○教科「**自己実現のための日本語**」を設置

読む書く中心の授業、 聞く話す中心の授業、

進路実現に向けた授業、日本語コミュニケーション演習

自分のルーツを大切にする授業：**母語継承語**

○必履修科目(体育、芸術をのぞく)**少人数抽出**、**やさしい日本語**で授業

○**大阪大学と協働**で日本語の教材・支援方法を開発



# 「自己実現のため」

## 母語継承語

聞く・話す

- ・日本語コミュニケーション
- ・日本文化事情
- ・日本語コミュニケーション演習

読む・書く

- ・日本語リテラシー
- ・日本語実践
- ・時事日本語
- ・日本語キャリア演習

地域連携

インターンシップ

あなたの強み +  $\alpha$

自己実現

# わかば日本語モデル1年次前期時間割（例）

	月	火	水	木	金
1・2時間目 09:00～10:45	数Ⅰ（抽）	情報Ⅰ（抽）	保健①（抽）	数Ⅰ（抽）	情報Ⅰ（抽）
3・4時間目 10:55～12:40	化学基礎（抽）	（学）日本語 リテラシー （抽）	LHR・総合	化学基礎（抽）	（学）日本語 リテラシー （抽）
昼休み 12:40～13:25	ランチタイム				
5・6時間目 13:25～15:10	現代の国語 （抽）	（学）母語継承語 A	（学）日本語 コミュニケーション （抽）	現代の国語 （抽）	英CⅠ（抽）
7・8時間目 15:20～17:05	下校				

### ③進路支援 進学・就職支援、キャリア教育

---

○地元小・中学校、NPOや行政機関と連携

日本語と母語継承語を活かした就業体験を

「インターンシップ」として導入 ← 市民性教育

○進路実現に向け、授業として

「日本語キャリア演習」「日本語コミュニケーション演習」

を卒業年次に関講し、履歴書作成や面接練習を行う

## ④生野区の強みを活かした 多文化共生の学校づくり

---

- 「居場所」「活躍の場」を提供する「部活動」をつくり発信
- 地元の小・中・NPO等とつながり、共生をめざし活動
- 土曜講座開講「やさしい日本語～おおさかでとみにくらす～」  
本校生徒＋地域の方にも学びの機会を提供

## ⑤持続可能な校内体制・地域連携づくり

---

- 外国人等生徒を支援するための**校内体制**を検討中。
- 地元の行政、NPO、小中学校、大学等と連携し、生徒や保護者を**包括的に支援できるネットワークづくり**

# これからの課題 持続可能な大阪府の支援体制づくり

梓校8校 → 情報交換・連携 → 共同事業体へ  
梓校 → 少数在籍校 (情報や教材の共有)

## ①高校における日本語指導、教科学習支援の確立

- ・大学との連携・協働
- ・一般化と専門化

## ②人材の育成と人材の共有

- ・日本語教育コーディネータ
- ・ネイティブ教員およびネイティブ支援者 + 日本語専門教員